

全鉄連情報

平成21年 4月20日刊

〔第72号〕

目次
P 1～2 加盟団体報告
P 2 鉄鋼課連絡会報告
P 2 常任理事会報告
P 2～3 鉄流懇報告

P 3 企業消息
P 3 会員入退会
P 4 業況アンケート結果

全国鉄鋼販売業連合会広報委員会主管

〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町3-2-10鉄鋼会館6F ☎03-3808-2350 FAX03-3808-2358

加盟団体報告

(平成21年 3月1日
～21年 3月31日)

新会長に丸岡勢一氏内定

△愛知鉄鋼販売業連合会 (林喜裕会長)

3月5日(木)開催された定例役員会で、今期末で林会長が退任して、丸岡勢一氏(岡谷スチール)を新会長に選任することを内定した。5月13日に開催する定時総会で正式決定する。

冷静な対応で困難に対処

△北海道鋼友会 (今井國雄会長)

3月13日(金)札幌市内で21年度定時総会を開催した。席上、今井会長は「冷静な対応が肝心である。経済情勢が厳しいからこそ原価を考えた商売に徹する必要がある。大幅な需要増は考えられない状況で、限られた需要で食べていくためには共通認識を持って困難に立ち向かうことが大切」と挨拶した。来賓として出席した全鉄連林会長は「現在の不況は建設業だけでなく、製造業をはじめあらゆる産業が悪化している。最悪の需給状態であるが、在庫は確実に減少し、通常なら不足するレベルとなろう。全鉄連としても内需喚起の提言など、需要増加へ向けた取り組みを進めたい」と語った。

ボウリング大会に30名参加

△東北鉄鋼販売業連合会 (齋藤芳郎会長)

3月27日(金)同会青年部はボウリング大会を仙台市内の勝山ボウリングクラブで開催した。1社3人(混成チームも可)のチーム対抗で競った結果、佐藤製線販売・日鉄住金建材混成チームが優勝した。2位新栄商事3位渋井鋼材店であった。また、個人優勝は男性部門が仁井田哲也氏(日鉄住金建材)女性部門が赤間由利香さんだった。大会終了後の懇親会では参加者全員が個性ある挨拶をして盛り上がった。なお、この大会には10チーム30名が参加した。

関連会議報告

鉄鋼課連絡会

3月24日(火)

会場 鉄鋼会館804号室

出席 松淵・芳澤(経済省) 林・木下(愛知) 西村・山岸・佐藤(東京) 阪上(大阪) 今井(北海道) 齋藤(東北) 井上(神奈川) 今井(新潟) 南(石川)

●全鉄連調べによる3地区12品種18サイズの平均市況は99,800円前月比-4,700円、前年同月比-11,000円。経済産業省からはソーラー・システムについての資料をも

とに、鋼材需要につながる分野であるとの説明がなされた。

常任理事会

●全鉄連アピールとして「不況克服の方策は内需の喚起から」とする文書を作成し、政党、関連官庁、メーカー報道機関に送付し、周知したことを報告。

●鉄流懇の運営が21年度より変更になるため、その対応について協議した。なお、変更内容については鉄流懇小野会長発言(P.3ページ)を参照されたい。

●岐阜総会については案内状を全会員に送付したことを報告するとともに、運営詳細についてはホスト団体である岐阜県鋼材販売協同組合と連携をとっていくことを申し合わせた。

●会計監査を4月22日(水)午後2時から全鉄連事務局にて行うことになった。

第408回鉄流懇概要

市場の混乱は未だ収束せず

●東鉄連からの概況報告(山岸・佐藤)

△鉄筋…扱ひ量が減少している。先物の話は土木中心にあるが、与信を抱えているのできわどいところがある。見積もり依頼があっても、受注先によって値幅のある対応や納期をにらんでのデリバリーをしていかざるをえない。

△平鋼…荷動きは右肩下がり。さらに悪化する趨勢にある。客先が提示する価格とメーカー販価が乖離している在庫調整は進捗しない。与信不安が蔓延しているため、新規の取引には慎重に臨みたい。

△形鋼概況…2月部会調査では前月比で在庫3%減、出庫3%減、在庫9%減。価格が去年より下落しているため、売上は減少している。

△H形鋼…2月末ときわ会在庫は約23万トン、前月比9%減少。メーカーの引受スキップが効いて、在庫が減っている。年度末の資金繰り対策もあることから、驚くような価格が出てくる。本当に仕事が少ない。

△一般形鋼…上値と下値の差が大きく、何が相場かわからない混乱状態である。ネットを下回る値段も入ってくる。

△C形鋼…年明け後、急激に市況が下がっている。しかも、これが底ではなく、先が見えない状態である。

△薄板概況…3月末までに在庫処分したい動きが目立っている。ユーザーは値下がりを見越し買い控えをしている。コイルセンターの売上、稼働は50%を切っているだろう。こうなると取引先の与信を心配するより自社の存続が憂慮される。

△冷延…需要減以上に価格が先行している。自社在庫については申し込みゼロでいい、契約残もいらない、これが大方の扱い業者の方針だろう。

△表面処理…1月末薄板3品在庫は472万トンで、問屋在庫が増加している。4月から、大手ユーザーは材料費、加工賃などの値引きを折り込んだ予算を組む方針である。

△厚板耳付き・切板母材…部会調査による2月販売量は前月比4%減、在庫量は2%減。前年比では販売62%減、在庫43%増。耳付きだけでこの5カ月間に2万1千トン増えている。この調整に今年一杯掛かることになろう。切板は母材を上回る値下がりである。

△中板・ホットコイル…中板も販売減、在庫増である。3月末も在庫増となる。販売数量は激減し、危険水域に入っている。毎月のように市況は大幅下落で、先安感が消えない。

△厚板定尺…非常に仕入れ値の高い在庫を抱え、在庫の山も高い。高炉材と電炉材の値差が大きいことがネックになっている。数板の引き合いだけが増えている。

△縞板…販売減が続いている。この下期は上期に比べ25%もの販売減となっている。ただ、販売見合いで契約しているので在庫率は高くない。4月末には在庫調整の目処がつくかもしれない。

△鋼管概況…低位安定が続いている。SPGを除くシームレスは前年比70%減、その他は20~25%減。需要がなければ物は動かない。溶協品が下落している。STKは厳しい状況にある。

△高炉品…引き合いや見積もりで、納期の提示がなく、価格だけを入れてくれという依頼があり、客先の意図を図りかねている。ともかく在庫を減らしていきたい。第3四半期で申し込みを止めたが、現状の在庫で10ヶ月から1年分賄える。パイプは下げても売れない品種なので、今は耐えるしかない。

△溶協品…STKの荷動きは2月横ばいで微増の分野もあった。3月に入って恐ろしいほどの落ち込みで、2月比20%減である。年度末の駆け込みも前倒しもほとんどない。

販売は前年比40%ほどの落ち込み

●OSAからの概況報告(阪上)

販売量を前年比で見ていくと、月を追う毎に減少幅が拡大している。3月に入っても低調で日当たりでは2月より減りそうだ。品種別の前年比は、条鋼30%減、薄板、厚板、特殊鋼は50%減、全体で40%ほどの落ち込みになりそうだ。在庫は相当なメーカー減産で仕入れが少なく、地方店、小売屋のヤードは土が見えるほどに減っている。条鋼在庫についてはほぼ適正な水準に近づいているが、シヤ・コイルセンターの在庫調整はなかなか進まず相当な過剰感に覆われている。値下がりが止まらず、決算対策での投げ売りも止まらない。これだけ販売量が減ったのでは自助努力の範囲を越えてしまっている。4~6月以降、製造業の在庫調整進展に伴う発注回復に期待が掛かっているが、実際のところはどうかの不透明な部分が多い。

トヨタショックで名古屋は閑散状態

●愛鉄連からの概況報告(木下)

名古屋は他地区以上に熾烈な状況に置かれている。先行きの視界はゼロ。悲鳴が上がっている。中日新聞に掲載された全国土地公示価格のなかで、商業地区の下落率ベスト10のうち9地点が名古屋市内であった。トヨタショックで下落したわけだ。名古屋市はトヨタが風邪を

引くと肺炎になる。自動車、工作機械などの製造業で生産調整が一気に拡大している。従って、それらに連なる3次、4次下請では倒産、廃業が相次いでいる。まさかの倒産も起きている。流通においては在庫損、急激な市場の縮小などにより月次決算が赤字に陥っている。そして、今しばらくこのような状況が続くと考えられる。淘汰、再編は避けられないだろう。明るい材料は建設部門で、病院関連の大型案件、中小メディカルセンターの見積もりがかなり出ていることである。設備投資が多少出てきたのかも知れない。JR東海リニア新幹線計画も進んでいる。今後、本格的な工事が出てくることを期待している。トヨタの在庫調整も北米以外は終わったようである。ともかく一日も早い回復を願っている。

商売は超閑散、信用不安深刻

●東北からの概況報告(齋藤)

商売がピタリと止まっている。東北鉄連の調査では売上金額前月比20~30%減少となっている会員が多数おり、8割ほどが赤字となっている。一部電炉の発表のたび底無しのように値が下がっている。中堅ゼネコンの信用不安は増幅され、地場中小ゼネコン、下請まで連鎖が及んでいる。

在庫調整は遅延、製造業向け大幅落ち込み

●神奈川からの概況報告(井上)

状況は悪化している。厚板では自動車、トラック、建機向けが量と価格の双方で大幅な落ち込みを見せている。中板、薄板も同様である。在庫調整は3月で終わっていたが、6月まで掛かりそうだ。パイプは他の品種より頑張っているが、ともかく荷が動かない。Hクラスのファブリケーターは6月頃まで仕事をもっているが、その先が見えない。また、秋以降の仕事については再見積もりとなっているものもあるそうだ。土木は低入札の影響で利益が出ない。横浜港開港150周年も期待薄である。

著しい製造業関連の落ち込み

●新潟からの概況報告(今井)

製造業向け4~5割、建設向け2~3割と落ちている。あえて良い分野を言えば、米菓、酒造ぐらゐで、あとは電力で一部設備投資が出ているくらいだろう。製造業向けの落ち込みが非常に激しい。鋼板在庫がかなり過剰となっている。ただ、在庫調整が終わり新たな仕入れをする段階になっても、様々な価格が存在すると思われ、どこを仕入れ先にするのか難しい選択を迫られそうだ。

主力産業に需要なし

●石川からの概況報告(南)

3月が底と見ていたが、未だ4、5月の見通しが見えない。中国から建機の注文が多少入ったようだ。建設関連はまだマシな方と聞いている。中古機械の引き合いがあり、扱業者は忙しいとのことである。耐震補強物件が出ており、R、Mグレードのファブが受注している。このようにメンテナンス、補修関連で多少仕事が出ている程度である。

早急に実効性のある経済対策を

●林会長(総括)

各地区からの状況報告のように、全鉄連会員からは需

要がないとの悲鳴が上がっている。需給ギャップが拡大し、まさに深刻な状況である。そうしたなかで先般全鉄連は「不況克服の方策は内需の喚起から」との提言を常任理事会で取りまとめ、行政関係先をはじめ、政府与党、民主党、メーカー、業界紙などに送付した。これだけ需要がないと、個々の会社では対応できず、国家の予算で本気になって取り組んでいただかないと経営が立ち行かない。国に頼ることは必ずしも好ましいこととは思っていないが、今回の事態は如何ともし難い。世界中が経済対策を実行中なので、どこかで需要が出てくるかもしれないが、すぐ効果が見込める経済対策を実行してほしい。これこそ政治家の出番である。鉄鋼界だけでなく、国家国民のために仕事を出す意気込みで取り組んでいただきたい。皆が嘆くばかりでは何も解決しない。経済産業省の働きかけによる特別融資などの支援策にはたいへん感謝してしているが、仕事がないことにはいつか息切れしてしまう。産業界では、経団連が経済対策を政府に要望したが、鉄鋼界を含めて皆で世論を形成し、需要の創出を促すような働きかけを是非とも行わなければならない。

*この後、商社・メーカーから発言があった。なお、発言内容については別紙資料3-1、3-2を参照。

減産態勢と在庫動向を注視

●経済産業省（石川課長）

この数ヶ月、非常に厳しい状況が続いている。ユーザ一業界で一部在庫調整が進んでいるところがある一方で幾つか心配な業種もある。一つは産業機械、建設機械が短期、中期的に少し心配である。設備投資情勢が非常に厳しいことから、機械設備の稼働率が日本全体で6割程度まで下がっている状況である。新規の設備投資は稼働率が100%前後にならないと実行されないの、外需の動きを含めて注視が必要である。もう一つは自動車関連である。最終メーカーは新聞報道にもあるようにすこしずつ在庫調整が進み、4～6月期には在庫調整分ぐらいの生産は戻ってくるとの見方である。一方で少し要注意なのは自動車部品である。統計を見ても依然、在庫の減少傾向が見られない。引き取りメーカーの減産に対応するのが精一杯で在庫削減まで至っていないと思われる。因みにIT関係、情報機器、電子部品デバイスなどの鉄を使わない分野では減産の開始が早かった分だけ、在庫調整が進みつつあるようだ。メーカー生産は流通関係者の指摘にもあるように、需要見合いの生産が必要である。実際、生産は1月より2月が低下し、2月より3月は更に低下し、3～4月が一番低い水準になると思われる。薄板3品在庫などは2月末統計で10数万トン減少すると思われ、毎月10万トン程度の在庫減が今度実現すれば4～6月期には400万トンに近い水準になり7～9月期には増加分を少し戻せるというシナリオが想定できる。しかし、今後どうなるか不透明であり、需要動向には引き続き注視が必要である。最後に林会長から指摘の経済対策については、政府も水面下では種々の検討を始めている。4月には政府でも本格的な検討を行い、早ければ4月下旬に補正予算が国会に提出され、5月中旬には国会を通ることを期待している。時期が遅れ予算規模が小さくならないよう、十分な規模でできるだけ早き時期に執行されることが重要である。今回は公共事業。インフラ整備など、必要なことは然るべき規模をもって実行すべきとの世論も聞かれ、一定規模の経済対

策が実現できるよう取り組んでいる。

厳しい状況を認識し、徹底した在庫減らしを

●小野会長

景気の底が見えない状況が続いている。2月粗鋼生産は547万トン、これを単純に年換算すると7130万トンにしかならず、目を疑う数字となる。全鉄連流動調査の2月販売量は20万トン際まで低下し、記録的な低水準となった。各地区業況アンケート結果では4～6月の需要動向が底割れすると見方が実に68%もあり、非常に厳しい状況にある。足元の需要が依然後退しており個人的には景気の先行きには大きな期待は持てないと考え。状況を厳しく捉え、ひたすら我慢、辛抱の対応を続けていくしかない。米国のサービスセンター在庫の動きを見ると、在庫の絶対量は歴史的な低水準にも拘らず、在庫率はほとんど低下せず逆に上昇する傾向となっている。実需が逃げ水のように後退していることが分かる。我が国でも足元で起こっている極端な需要不振が続けば在庫調整が思うように進まない事態にもなりかねない。JFEスチールとしても一層のスピード感をもって在庫調整の手綱を緩めず、徹底的に在庫を減らすことを緊急の課題として着実に実行するつもりである。最後に鉄鋼流通問題懇談会の今後の運営について説明させていただきたい。当会は昭和48年1月に発足。今回で408回目と非常に歴史ある懇談会である。この間、日本鉄鋼業の成長と共に歩み、鉄鋼業の環境変化と合わせて運営のあり方も変えてきており、今般、昨今の様々な状況変化を鑑み、以下のように運営を改めたい。①当会を一旦廃止し、4月以降全鉄連が主催する新しい会を組織する但し、会議名称は現名称を継承する。②会長は引き続きJFEスチール・小野が努める。その他の出席者は全鉄連、鉄連商社委員、鉄連事務局とする。以上の基本メンバーに加え、経済産業省には引き続きオブザーバー参加をお願いしたい。③開催頻度を3ヶ月に1回とし、次回を5月に設定する。以降は8月、11月、2月の開催を予定。

会員企業消息（平成21年 3月 1日～21年 3月31日）

〔所在地・代表者変更など〕

○佐藤製線販売(株)（東北）～代表者に多田敬助氏が就任した。

会員入退会（平成21年 3月 1日～21年 3月31日）

〔入会〕

*該当事項なし

〔退会〕

- 菱和鋼業(株)（東鉄連・京橋）
- (有)鋼板センター（佐賀）
- 旗矢鉄鋼産業(株)（北海道）

(了)

3月23日締切で、当会役員166名に対し、このアンケートを行ったところ、100名(60.2%)から回答があり、その結果(太枠内)が下記の通りまとまりましたのでご報告いたします。

*DI算出方法=(A×2+B×1-D×1-E×2)÷回答数×100

最悪な売上状況

【問1】貴社の2月(先月)の総売上金は、前年同月比で如何でしたか。

2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	売上 前年比	A	B	C	D	E	計	2月
DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI		10%以上増	5%以上増	ほぼ横ばい	5%以上減	10%以上減		DI
36	34	34	▲45	▲53	▲39	▲95	▲82	▲96	▲122	▲135	▲166	数量	1(1%)	0(0%)	4(4%)	12(12%)	83(83%)	100	▲176
4	110	110	59	81	95	54	72	43	▲18	▲51	▲126	金額	3(3%)	0(0%)	5(5%)	10(10%)	81(82%)	99	▲168

激減状態続く

【問2】貴社営業窓口から見て3月(今月)の販売量は前月比如何ですか。

3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	販売量 前月比	A	B	C	D	E	計	3月
DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI		かなり増加	やや増加	ほぼ横ばい	やや減少	かなり減少		DI
▲34	▲87	▲89	▲75	▲64	▲84	▲52	▲74	▲96	▲100	▲104	▲99	公共建設向	1	8	22	21	24	76	▲78
▲18	▲67	▲82	▲60	▲54	▲79	▲63	▲84	▲112	▲123	▲136	▲121	民間建設向		3	20	22	38	83	▲114
2	▲24	▲40	▲28	▲33	▲51	▲22	▲79	▲110	▲153	▲155	▲146	自動車向		1	12	8	32	53	▲134
1	▲41	▲59	▲48	▲41	▲67	▲36	▲63	▲97	▲124	▲130	▲125	その他需要家向		7	13	20	41	81	▲117
3	▲53	▲69	▲47	▲52	▲80	▲64	▲78	▲106	▲124	▲129	▲126	仲間取引		3	17	21	36	77	▲117
▲11	▲58	▲71	▲54	▲50	▲74	▲50	▲75	▲104	▲123	▲129	▲122	計	1	22	84	92	171	370	▲111

赤字企業増加、DI値マイナス3桁へ

【問3】貴社の2月(先月)の企業収益状況は、如何ですか。

2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	企業 収益状況	A	B	C	D	E	計	2月
DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI		黒字	若干黒字	収支トントン	若干赤字	赤字		DI
116	142	143	128	133	137	106	106	83	19	▲36	▲93		3(3%)	9(9%)	16(16%)	21(21%)	51(51%)	100	▲108

新年度に入っても需要回復の兆しなし

【問4】貴社における向う3ヶ月間の需要動向についての予測は如何ですか。

3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	需要動向 予測	A	B	C	D	E	計	3月
DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI		増加	微増	ほぼ横ばい	微減	減少		DI
2	▲32	▲30	▲28	▲26	▲34	▲4	▲98	▲124	▲151	▲131	▲93		3(3%)	9(9%)	16(14%)	21(21%)	51(51%)	100	▲108

先安感、需要激減で在庫調整進まず

【問5】下記主要品種の貴地区市場の需給状況は如何ですか。

3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	需要状況 売角虫	A	B	C	D	E	計	3月
DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI		非常に不足	やや不足ぎみ	ほぼ需要均等	やや過剰気味	非常に過剰		DI
41	40	44	17	15	4	▲8	▲35	▲54	▲72	▲46	▲57	鉄筋用丸鋼		2	27	20	3	52	▲46
19	15	26	11	▲2	▲4	▲7	▲20	▲30	▲50	▲49	▲52	構造用丸鋼		1	27	14	3	45	▲42
31	43	22	15	9	▲4	▲14	▲40	▲43	▲51	▲49	▲68	平角鋼			24	25	3	52	▲60
86	97	93	56	32	7	▲13	▲55	▲31	▲75	▲58	▲71	H形鋼		2	20	25	8	55	▲71
59	93	95	94	80	58	44	0	▲31	▲57	▲62	▲62	コラム			18	15	7	40	▲73
45	40	30	21	8	▲11	▲20	▲51	▲45	▲63	▲55	▲38	小形山形鋼		1	29	24	3	57	▲51
49	48	34	16	11	▲7	▲24	▲53	▲48	▲60	▲50	▲37	中形山形鋼	1	2	29	23	3	58	▲43
79	78	61	48	31	12	▲4	▲40	▲48	▲59	▲60	▲45	溝形鋼		2	26	24	5	57	▲56
8	12	2	▲3	▲15	▲20	▲29	▲40	▲47	▲66	▲65	▲67	軽量形鋼C形		1	22	21	5	49	▲61
13	16	5	2	3	▲3	▲14	▲22	▲34	▲58	▲58	▲64	軽量形鋼広幅			17	12	3	32	▲56
91	69	73	46	32	2	▲2	▲43	▲47	▲83	▲88	▲110	冷延薄板			7	25	16	48	▲119
87	75	52	32	19	▲3	▲17	▲48	▲67	▲83	▲89	▲110	熱延薄板			12	30	18	60	▲110
82	67	57	34	12	▲8	▲18	▲39	▲58	▲77	▲78	▲100	表面処理鋼板			14	22	15	51	▲102
135	98	65	34	20	▲14	▲29	▲71	▲82	▲89	▲100	▲114	酸洗鋼板		2	7	20	22	51	▲122
92	78	48	44	17	▲4	▲10	▲52	▲63	▲86	▲83	▲105	中板		1	16	32	15	64	▲95
105	122	102	88	86	76	66	38	▲2	▲35	▲41	▲79	厚板		1	18	28	3	59	▲41
118	120	113	102	110	100	92	70	31	11	▲5	▲36	極厚板		1	22	9	3	35	▲40
42	49	20	25	9	7	4	▲26	▲33	▲28	▲37	▲52	縞板			25	22	4	51	▲59
22	26	13	10	9	0	▲6	▲30	▲37	▲36	▲49	▲58	中径角			24	23	5	52	▲63
24	28	13	12	13	0	▲4	▲21	▲25	▲38	▲32	▲63	ガス管・黒			27	18	6	51	▲59
23	25	15	2	4	▲6	▲5	▲20	▲25	▲41	▲36	▲62	構造用鋼管			22	17	5	44	▲61
61	60	47	34	24	7	▲2	▲30	▲40	▲58	▲58	▲70	計	1	16	433	449	164	1063	▲71

発表項目	発表者	鋼管				
		伊藤忠丸紅鉄鋼	薄板 回各鋼種	厚板 J F E 高車		
1. 需給動向 (景況感)		3月に入り市況は一段と下落。STKRに比べ市況維持していたSTKも販売量低迷、在庫圧縮の為 価格下落進んでいる。	1月末の薄板三品在庫は12月末比2.2万トンの増の472.9万トと前月に引き続き過去最高を更新した。鉄鋼メーカー各社は大幅な減産を継続しているが、需要の減少がそれを上回っており在庫調整が進まない状況。そのような中、市中では期末に向け高値在庫を早く圧縮したい動きに加えて資金事情からの売り取りも重なり、市況は混乱した状態。	造船の1月末手持工事量は前月比2.2%減の6,623万G/Tと4ヶ月連続の減となった。1月の新造船受注は前年同月比25.2%減の117万G/Tと5ヶ月ぶりのマイナスとなった。建設機械の1月の出荷金額は内需で前年同月比34.5%減(401億円)、外需は58.1%減(569億円)、合計で50.8%減(970億円)で4ヶ月連続の減となった。産業機械の1月の受注高は内需は前年同月比74.5%、外需は19.5%、合計で46.4%となった。鉄骨需要は設備投資意欲の減退影響が大きく、規模縮小、延期、中止の動きが強まっている。	棒鋼 市況は、ゼネコンの厳しい指値もあり、安値傾向が続いているが、引き合いは、即納、小口物件を中心に、若干上向きに転じている。関東地区の2月明細は16万トン台まで回復している。 形鋼 じり安展開の市況は、年度末を控え、換金売りの安値も散見される。市中在庫の在庫調整は進んでいるものの、美需の減少、先安感による物件の仕入が遅れている事も有り、荷動きは低迷している。	
2. 需要産業動向		自動車・建産機は足許の在庫調整激しく、出荷量激減。 プラント向けは09年度上期はこれといった案件なし。 延期・中止なければ09年度下期から若干出でくる模様。	自動車各社は世界的な販売不振を背景に在庫調整を急ピッチで進めていることから1月の生産、輸出は過去最大の減少(1月生産58万台/前年比41%減、1月輸出23万台/前年比59%減)となった。弱電関連の生産においても白物家電、薄型テレビなど軒並み前年比減少が続いている。建築関連においても雇用情勢や資金調達環境の悪化、マンション在庫の高止まりから1月の新設住宅着工戸数は前年比18.7%減の7.1万戸となり、年率換算値で95.7万戸と2ヶ月振りに100万戸を下回るなど依然として低調。	造船の1月末手持工事量は前月比2.2%減の6,623万G/Tと4ヶ月連続の減となった。1月の新造船受注は前年同月比25.2%減の117万G/Tと5ヶ月ぶりのマイナスとなった。建設機械の1月の出荷金額は内需で前年同月比34.5%減(401億円)、外需は58.1%減(569億円)、合計で50.8%減(970億円)で4ヶ月連続の減となった。産業機械の1月の受注高は内需は前年同月比74.5%、外需は19.5%、合計で46.4%となった。鉄骨需要は設備投資意欲の減退影響が大きく、規模縮小、延期、中止の動きが強まっている。	棒鋼 市況は、ゼネコンの厳しい指値もあり、安値傾向が続いているが、引き合いは、即納、小口物件を中心に、若干上向きに転じている。関東地区の2月明細は16万トン台まで回復している。 形鋼 じり安展開の市況は、年度末を控え、換金売りの安値も散見される。市中在庫の在庫調整は進んでいるものの、美需の減少、先安感による物件の仕入が遅れている事も有り、荷動きは低迷している。	
3. 輸出入動向		1月の鋼管貿易は輸入は韓国材の流入もあり、前月比若干の増となった。	1月の薄板三品入着量は熟延延類(前月比46%減)、冷延延類(同37%減)、亜鉛めっき類(同15%減)の全品種で減少。三品合計では前月比8.7万トン(同40%)の大幅な減少となった。一方、1月の薄板三品輸出量も熟延延類(前月比22%減)、冷延延類(同39%減)、亜鉛めっき類(同41%)の全品種合計で前月比33万トン(同34%)減少した。前年同月比では63万トン(49.7%)の大幅減となった。	1月の輸入入通関は8,800tで前月比3,200tの減。輸出は264千tで前月比75.5%となった。	輸出 普通鋼鋼材の1月の輸出量は前年同月比37.2%減の132万7千トンと4ヶ月連続で減少。形鋼が同53.0%減の4万7千トンと6ヶ月連続で前年割れとなった。小形棒鋼は同52.3%減の2万2931トンと減少。 ピレックスは4万7880トンで前年同月比55.1%減。5万トン割れは2ヶ月ぶり、前月比でも16.3%の減少。最大の輸出先の韓国向けは、2万452トン(同62.2%減、前月比6.6%増)、中国向けは1万3984トン(同約13倍、前月比24.6%増)、輸入 普通鋼鋼材の1月の輸入量は前年同月比42.0%増の18万3千トンと22年ぶりの低水準となった。日形鋼については、韓国5,282トン、台湾756トンにとどまったが、今後は増加が見込まれる。	棒鋼 市況は、ゼネコンの厳しい指値もあり、安値傾向が続いているが、引き合いは、即納、小口物件を中心に、若干上向きに転じている。関東地区の2月明細は16万トン台まで回復している。 形鋼 じり安展開の市況は、年度末を控え、換金売りの安値も散見される。市中在庫の在庫調整は進んでいるものの、美需の減少、先安感による物件の仕入が遅れている事も有り、荷動きは低迷している。
4. 海外市場動向		今期に予定されていたライオンパイプ大型プロジェクト案件は延期・中止が相次いでいる。 油価や鋼材の価格下落動向、施主の資金繰り面などが要因。 大型案件が本格的に動き出すのは2010年以降の見通し。	政府の景気対策などを後押しにインドや中国で自動車販売が前年同月比プラスになるなど一部地域で需要の底入れが起きているものの、本格的な回復までにはまだ遠い状況。そのような中、アジア地域では韓国をはじめ、中国、日本、台湾、豪州など各国シールの売込みが強く、海外市況も弱含みで推移している。	中国市況は旧正月後、下落傾向続く。	棒鋼 市況は、ゼネコンの厳しい指値もあり、安値傾向が続いているが、引き合いは、即納、小口物件を中心に、若干上向きに転じている。関東地区の2月明細は16万トン台まで回復している。 形鋼 じり安展開の市況は、年度末を控え、換金売りの安値も散見される。市中在庫の在庫調整は進んでいるものの、美需の減少、先安感による物件の仕入が遅れている事も有り、荷動きは低迷している。	
5. トピックス					鉄スクラップの国内、3月第二週の中況(12、13日前平均価格)は関東16,917円、中部、15,380円、関西、16,567円となった。3地区平均価格は16,288円(前週に比べ1,522円の下落となった)。鉄スクラップの1月の輸出は64万6千トンで前年同月比50.3%(21万7千トン)増と2ヶ月連続で前年を上回った。中国向けが前年同月比で3倍と大幅に増加。対前月比でも33.4%(16万2千トン)の増加。	

発表者	発表項目	電炉
		ダイワスチール
1. 需給動向 (景況感)	<p>①09. 1月の小棒メーカーの生産量 鉄筋用小棒 553千t (前年比 25%) 前年比 関東 ▲10% 関西 ▲39% (前月比 ▲7%)</p> <p>②スクラップ価格が、1月下旬より、下落傾向にあること、市況も同様に弱含みで推移しており、セネコン・流通ともに、完全に、必要なものだけを輸入するという状況</p> <p>③足元の投入明細は、相変わらず低調で、翌月の生産計画が立て難い状況</p>	<p>日本経済は、GDP前期比(年率)が12.1%減となった10-12月に引き続き、この1-3月についても非常に厳しい状況で推移している。生産の急激な落ち込みによる企業業績の悪化が、設備投資、賃金・雇用、更には個人消費を抑制している。海外経済も悪化に歯止めがかかっておらず、各国は金融緩和、財政支出など政策を総動員している。</p> <p>2月の粗鋼生産は、前年同月比で44%減の547万トンと4ヶ月連続で大幅に減少しており、鋼材受注量も内需向けが前年同月比44%減、外需向けも50%減と、大幅なマイナスが続いている。</p>
2. 需要産業動向	<p>① 08.11~09.1月のRCの着工面積 前年比 全国+26% /近畿+8% 09.1月のRCの着工面積 242万㎡ 前年比 全国▲5% /近畿+6%</p> <p>② エンジン着工戸数 08.11~09.1月 前年比 全国+2%、首都圏▲1% 近畿▲15%</p> <p>③ エンジン新規契約率 09.1月 首都圏64% 近畿50%</p> <p>④ 不動産経済研究所の09年度予想販売戸数は、前年比 ▲2.1% の96,000戸 (08年の98,000戸は、94年の半分)</p> <p>⑤ 関西のエンジンの新規供給戸数 (0.8. 1~12月) 22,744戸 (前年比▲25%)</p>	<p>建設、製造業ともに厳しい状況が続いている。</p> <p>[建築] 1月新設住宅着工戸数7.1万戸 (前年同月比18.7%減) 年率換算95.7万戸と100万戸割れ。</p> <p>[自動車] 2月国内販売37万台 (前年同月比23.9%減) 7ヶ月連続減。 1月完成車輸出23万台 (〃59.1%減) 4ヶ月連続減。</p> <p>[産業機械] 1月受注 前年同月比59.7%減。6ヶ月連続減。 1月生産 〃 36.1%減。11ヶ月連続減。</p> <p>[造船] 1月新造船受注117万GT (前年同月比25.2%減) 5ヶ月振り減。 1月起工量82万GT (〃25.8%) 5ヶ月振り減。 1月末手持工事量6623万GT (前月比2.2%) 4ヶ月連続減。</p>
3. 輸出入動向	<p>①09. 1月 エレット輸出 47,580 トン (前年比 ▲5.5%) (内訳 韓国 20,452 トン、中華人民共和国 13,984 トン、ベトナム 10,620 トン) 異形体鋼輸出 20,073 トン (前年比 ▲4.6%) (内訳 韓国 12,848 トン、中国 64 トン、パナマ 7,160 トン)</p>	<p>[輸出] 1月の全鉄鋼輸出は、前年同月比34.4%減の200万トンと、4ヶ月連続のマイナス、下げ幅は過去最大となった(1972年6月30%減以来)。</p> <p>[輸入] 1月の普通鋼鋼材輸入は、前年同月比42%減の18.3万トンと、3ヶ月連続のマイナス、単月としては1986年6月(17.6万トン)以来約23年振りの20万トン割れとなった。</p>
4. 海外市場動向	<p>① 国際スクラップの下落傾向で、韓国メーカーも輸入を中断している。 ② 製品価格も下落しており、日本からの輸出は、採算的に厳しい状況</p>	<p>海外においても、鋼材需要急減に伴う減産が続いており、1月の世界粗鋼生産は、8577万トン(前年同月比24%減)と2ヶ月連続で2割強のマイナスとなった。欧州・CISが対前年ではほぼ半減となる中、最大の生産国である中国は前年比2.4%増の4152万トンと5ヶ月振りに増加に転じている。</p>
5. トピックス	<p>① 東京製鉄 スクラップ (特級) 購入価格 (公表値) 3月10日 岡山 陸 17,000円 宇都宮 17,000円 * 09年の最高値 09.1月21日 岡山 22,000円 宇都宮 22,000円</p>	